

本とマレーシアの見直しの方向性は一致しているかなと思います。ただ具体論では今後なのではないかと思えます。

## ■ セカンドウェーブとして

### 日本の良さを捉え直すことの可能性

私もいろいろなお話を聞いていると必ずしもそうではないかなと思いつつ、今宣伝しているのは、単に東方政策30周年になったり見直すということではなく、まさに新たな出発が必要なのだと。その新たな出発というのは、時代のニーズに合わせて東方政策のあり方を変えることも重要ですが、日本の良さをこういう機会にお互いに見つめあうのがいいのではないかな。

マハティール首相は職業倫理、あるいは恥の文化を日本でいいものとして発見し、それをマレーシア人に学ばせようとしたということですが、それ以外にも日本の良さはいろいろなところにあると思えますし、マレーシアが今後ある意味で先進国というか、一人当たりのGDPが高い国になれば、安かろうだけではダメであって、やはりそれ相応のサービス、いいものを欲してくるはず。そこでいいものを提供できるのは日本なのではないか。今後、このワーディングが流行るかわかりませんが、私としては、「ディスカバリージャパン・セカンドウェーブ」ということでやるというのも一つの方法ではないかと思っています。

## ■ 国力が低下している状況下で

### ASEAN各国と関係の再評価を

最後に、来年2013年は日ASEAN友好協力40周年です。政府としては、アフリカが重要だ、中東が重要だ、南アジアは重要だというのは当然のことです。外交をやる者として、重要ではない国はそもそも存在しないのですが、ただ日本の国力が相対的に落ちているということは否めない事実で、ある程度のメリハリは必要じゃないかと思っています。

そういう意味では、日本にとって身近な地域であるASEANの国をもう1度振り返って彼らとの関係をじっくり見直したい、あるいは評価したいと思えますし、その大きな流れの中でマレーシアについてもいろいろと関係を深くして、二国間関係を強化していければと思っています。

**司会** 山本課長には、午前中のお話と若干モードを変えて、外交の現場での対応、考え方、感覚が伝わってくるお話をしていただきました。

次のゲストスピーカーは、アクマル・アブ・ハッサン

さんです。1990年にマレーシアのマラヤ大学をご卒業になったあと、東方政策プログラムで群馬大学工学部に留学、95年に卒業されました。その後、東京三菱銀行、マレーシア国際貿易産業省、マレーシア貿易開発公社大阪事務所での所長補佐を経て、2007年にジョムマレーシアジャパン株式会社の代表取締役役に就任され、そのあと自ら起業して、2010年9月にマレーシア・ハラルコーポレーション株式会社を設立し、代表取締役として現在会社を経営しておられます。東方政策30周年に合わせて、マハティール元首相から最も成功した東方政策留学生として表彰されています。

## 報告2

アクマル・アブ・ハッサン  
マレーシア・  
ハラルコーポレーション株式会社



私の話は少し違う観点になると思いますが、日本がマレーシアから学ぶこともあるのではないかなという話をします。東方政策が1982年に始まって私は7期生目で、1989年にマラヤ大学に入って、日本語学校で日本語を勉強して、1990年に初めて日本にきました。

1982年、マレーシアのGDPは1,800USドルぐらいでしたが、日本からいろいろ学んで、日本からの投資が増加して、マレーシアの高速道路も空港も日本の技術を導入して造られました。今年のマレーシアのGDPは約9,600ドル、クアラルンプールだけで約1万2千と言われます。それに対して現在の日本の状況を考えると、日本はマーケットが成熟していて、人口も減って高齢化社会になって、この20年間の日本のGDPの成長率は15.7%、つまり年間の成長率は0%以下です。

## ■ 日本が観光立国を実現するには

### ハラルの環境整備が不可欠

この状況で日本がマレーシアから何を学ばなければいけないのか。今年、日本は観光立国を打ち出していますが、日本という国は誰でも来やすい環境ではありません。マレーシアは、観光人口を見ると世界9位ぐらいに入っていますが、日本は31位です。なぜマレーシアは観光客に多く来ていただいているかというと、マレーシアは誰でも受け入れやすい環境になってい

るからです。例えば日本人が旅行で何を楽しまたいかといえば、一つは食べ物です。マレーシアは日本料理が食べられますし、中国人が行っても中国料理が食べられるし、韓国人が行っても韓国料理が食べられます。中東の人が行ってもハラール料理が食べられます。今の日本は観光立国を推進して、嵐を使って宣伝していますが、その前にまず環境を整えることが必要です。

観光立国というのはどういうことか。観光に来ていただくといろいろな経済効果が生まれます。買い物をして外貨を落としていただけます。これは経済にすごく効果があります。現在の日本はデフレで、物価が下がり、所得も下がっているのです。日本の中でお金を使う人が少なくなっています。このままいくと日本はつぶれるかもしれないとマレーシアの人たちも心配しています。マレーシアが日本に学ぶ前に日本がつぶれてしまうのではないかと心配しています。

去年のデータでは、日本には観光客が約800万人来ていましたが、そのうちインドネシアやマレーシアの人、つまりイスラムの人は20万弱です。なぜ彼らが増えないのかというと、日本に来て楽しめないからです。みなさんはマレーシアに行けばマレーシアの料理を食べたいでしょうが、それと同じで、私たちも日本に行けば日本のものを食べたいと思います。でもなかなか食べられません。ハラールの環境がないからです。

### ■ イスラムの期待とあこがれに答えられていない 日本はマレーシアに学ぶべき

日本人は気付いていないかもしれませんが、日本にあこがれる人は世界にたくさんいます。特に今成長しているイスラムの国々がそうです。マレーシアがなぜ東方政策を作ったかと言えば、日本にあこがれて日本から学びたいからです。でも日本は応えてくれません。日本から学びたいというのは、実際に日本に行ってみたいということです。日本人が背広を着ている姿が見たい、自転車に乗っている人が見たい、公園でワンちゃんがうんこしたら掃除している日本人が見たい、時間通りに来る電車に乗ってみたいと思っています。日本に来て経験したいけれど、日本が応えてくれないのです。

日本は物価が高いとか言いますが、実は日本は買い物天国です。ルイヴィトンの最新のバッグが売られるのは、ロンドン、パリ、東京です。ロンドン、パリ、クアラルンプールじゃありません。富裕層の人たちは、お金を持って日本に行き、買い物して、ごはんを食べたいと思っています。そういう人たちに来てもらわな

いと日本は寂しい国になります。ビザを取るのが難しいという問題はありますが、ビザは自分たちで何とかして取れます。それよりも、まず誰でも来られる環境にしないとイケません。

大学を見ても、日本の学力はどんどん低下しています。東京大学は世界で10位以内に入っていましたが、現在は15位です。その一つの要因は、頭のいいイスラムの人は、生活しにくいから日本に来たくないんです。イスラムは世界に18億人ぐらいいます。山中伸弥教授みたいな人だって1人か2人はまちがいないんです。でも現在の日本には来ません。私たちは日本の最先端のものを見たいけれど、受け入れ環境が整っていないから来ないんです。

これは日本がマレーシアから学ぶべきことだと思います。マレーシアは、1997年の観光客は約800万人でしたが、去年は2,400万人です。マレーシアの人口は2,800万です。日本は最新技術とか魅力的なものがたくさんあって、ユネスコに登録されている世界遺産では自然遺産が三つ、文化遺産が12あるけれど、見たくても見られないのです。

マレーシアの政府が一所懸命に東方政策をうたって、日本に実際に行ってみたいと思っても、なかなか来られないのです。皆さんは気づいていないかもしれませんが、去年日本に来たマレーシアの観光客のアンケートに、いろいろ心配して日本のものが食べられなくて3日間ずっとパンで我慢したという回答がありました。私の考えでは、東方政策はマレーシアが日本から学ぶだけではなくて、互いに学ぶべきこともたくさんあります。

### ■ 国策としてハラールを導入し

#### 日本の技術をイスラムに輸出する

もう一つ、日本にはユニクロや100円弁当などがありますが、日本の魅力はそれではないのです。日本には技術があって匠の世界があります。日本が加工する製品や日本食を成長しているイスラム国にどんどん輸出するべきだと思います。

マレーシアにはハラールという仕組みがあって、海外から技術を導入してマレーシアで観光してもらって発展しています。マレーシアのマレー系を使ってインドネシアのマーケットを開拓する。マレーシアの華僑を使って中国マーケットを開拓する。インド人を使ってインド・マーケットを開拓する。だからマレーシアの経済は成長しているんです。経済の基盤は購買力です。購買力とは人口です。マレーシアの人口は2,800万